③「普通科新学科設置準備委員会（仮称）」での検証
・普通科新学科設置を目指す高等学校を構成員とする委員会での相互評価
・指導主事による各校の成果に関する相対的な評価
④兵庫県教育基本計画にもとづく検証
・「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づく年度末評価の実施

【事業評価の考え方・観点】
①スクール・ポリシーの適切な設定
・生徒に身につけさせる資質・能力の明確化
・資質･能力を育成するために必要な教育課程に関する方針の明確化
・入学時に期待される生徒像の明確化
②育成するべき資質・能力に関する評価方法の適切な設定
・生徒の目標に対する到達度（ポートフォーリオ、ルーブリック等）
・生徒の興味・関心・意欲等に関する教職員の理解度
・生徒や教職員、協働者に関するコーディネーターの理解度
③３年間を通じた体系的なカリキュラムの設定
・教育目標に則した教科横断的で体系的なカリキュラムの設定
・学校設定教科を軸とした、探究活動中心のカリキュラムの設定
④ICT 等を活用した授業設定
・BYOD をはじめとする情報端末機器を有効に活用した授業の展開
・急激な社会変化等に影響を受けにくい学習環境の構築
⑤コーディネーターの有効な活用方法の検証
・コーディネーターの得意分野を生かした学校組織での活用
・コーディネーターによる研究機関や地域社会との接続点の増加
・コーディネーターを軸とする学校内外の協働体制の構築
・コーディネーターの関与によるワークライフバランスの組織的な担保

【具体的な評価指標(例)】
高校の魅力・特色を高校選択の理由にした生徒の割合
【第３期ひょうご教育創造プラン指標】

区　　分	Ｒ元年度 実績	Ｒ２年度	Ｒ３年度 見込	Ｒ４年度 目標	最終目標 【年度】
目標	82%	83%	84%	85%	86%
実績(見込)	81.0%	82.5%	79.3%	(85%)	【R5 年度】

（３）学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校における事業の管理方法
①校内組織の改編
・コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化
・校内の教育活動全体に関するコーディネーターの関与を充実
・職員会議等において、事業内容に関する情報を共有化

②普通科新学科設置検討委員会の設置
・普通科新学科設置に向けた準備委員会を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により、組織的に改編を推進

③運営指導委員会の開催
・運営指導委員会を年間３回以上開催し、専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者や自治体関係

者、地域NPO等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を実施
・委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言の実施

④コンソーシアム運営委員会の開催
・コンソーシアム連絡会を定期的に開催し、カリキュラムについて、各専門分野の立場から必要な助言を与え、協働体制を構築
・探究活動に関する情報やデータの提供や、フィールドワークやインターンシップ等の体験的な学びやICTを活用した海外との交流の機会を提供
・カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を展開
・実行されたカリキュラムの成果に関する定期的な報告を受け、必要な助言を付与
・普通科専門学科としての特色ある教育課程の推進のため、各種分野において優れた知識・技能を有する社会人等を学校設定教科・科目、総合的な探究の時間等の講師として活用する特別非常勤講師を配置
・本県知事部局の国際交流課・国際経済課等との協力のもと、指定校と国内の大学や企業、海外の教育機関との連携強化や、本県SSH指定校等で組織する「兵庫『咲いテク』事業推進委員会」との連携を推進する事業の支援・拡大及び成果の普及を展開

※①～④を関連付けることにより期待される相乗効果
・探究活動は、専門的かつ広範囲的な内容を伴うことから、従来の高等学校の教育環境のみでは効果的な実施が困難な状況であるが、多方面の専門家や組織が、事業実施校の教育目標や実施内容に関する情報等を共有することにより、人的支援及び物的支援等を受けやすくなり、内容の深い学びを機能的に実現する可能性が高まる。
・生徒が個々に発案して進める探究活動を、校内外の様々な場面で公開していくことにより、生徒の課題意識が社会全体の課題とリンクしやすくなり、より大きな支援等を得た教育活動となり得る可能性が高まる。

（４）管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

〔管理機関における研究開発の実績〕

学校名	指定年度	指定機関	研究主題
神　　戸	平成16～令和４年度	文部科学省	スーパーサイエンスハイスクール 将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等を指定し、理数系教育に関する教育課程等に関する研究開発（実践的な研究を含む。）を行う。
長　　田	令和４～令和８年度		
尼崎小田	平成17～令和元年度		
宝 塚 北	令和元～５年度		
三田祥雲館	平成21～令和３年度		
明 石 北	平成22～令和元年度		
加古川東	平成18～令和３年度		
小　　野	令和元～５年度		
姫 路 西	令和２～令和６年度		
姫 路 東	令和２～令和６年度		
龍　　野	平成25～令和４年度		
豊　　岡	平成18～令和３年度		
姫 路 西	平成26～平成30年度		スーパーグローバルハイスクール グローバルな社会課題を発見、解決できる人材やグローバルなビジネスで活躍できる人材育成するため、質の高いカリキュラムの開発・実践を行う。
兵　　庫	平成27～令和元年度		
伊　　丹	平成27～令和元年度		
国　　際	平成27～令和元年度		

兵　庫	令和２～４年度		地域との協働による高等学校教育改革推進事業 市町村・高等教育機関・産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を行う。
生　野	令和元～３年度		
柏　原	令和元～３年度		
佐　用	令和２～４年度		
村　岡	令和２～４年度		

〔申請校（兵庫県立御影高等学校）における研究開発の実績〕

○　ひょうごスーパーハイスクール指定（平成30・令和元年度）
　本校の研究テーマ：持続可能な国際社会をつくるリーダー育成

○　三菱みらい育成財団助成事業指定（令和３～５年度）
　カテゴリー１「心のエンジンを駆動させるプログラム」で指定
　本校のプログラム名
　　伸ばせ！『みかげ力』外部連携を活かした生涯学び続ける生徒を育てる探究活動

○　近年の課題研究などの外部発表等での受賞
　関西学院大学リサーチフェア2019　奨励賞
　関西学院大学リサーチフェア2021　実行委員会特別賞
　　「地域×おもちゃ－想いをつなぐおもちゃのバトン」
　　（家にある使わなくなったおもちゃを保育所に寄付しようという取組）
　甲南大学リサーチフェスタ2021　クリエイティブテーマ賞
　　「ナラ枯れに迫る」（神戸市北区の再度公園のナラ枯れの現状調査）
　神戸市東灘区　青少年を地域でたたえる賞
　　課題研究食品ロス研究チーム
　　（廃棄する野菜を使ったスープレシピを考案。神戸市作成のレシピ集に掲載）
　甲南大学リサーチフェスタ2022　クリエイティブテーマ賞
　　「何がいけない？～上げたい投票率 上がらない投票率～」
　　（選挙の投票率や仕組みの国際比較）

（５）運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
関西国際大学国際コミュニケーション学部	准教授 前田　哲男	専門は英語教授法。兵庫県教育委員会勤務を経て、県立生野高校・三木高校・小野高校の校長を歴任。令和３年４月から現職。令和４年４月から同大学高大連携センター長
神戸大学文学部	准教授 菊地　真	専門は地理学。現在は災害と文化財保存を研究。本校と神戸大学文学部の高大連携（神戸大学生が本校生徒の課題研究を指導）の担当者も経験
甲南大学フロンティアサイエンス学部	教授 甲元　一也	専門は生命科学。現在は産学連携によるバイオテクノロジーを研究。SSH校等での特別講義も実施
NPO法人Colorbath	ディレクター 椎木　睦美	JICA 青年海外協力隊員としてｱﾌﾘｶ（ﾏﾗｳｲ）に赴任。現在は「途上国と日本の共成長」をﾃｰﾏに国際的なWeb交流事業等を実施。令和２年度に世界経済ﾌｫｰﾗﾑ（ﾀﾞﾎﾞｽ会議）Global Shapersの日本代表に選出
（株）マルヤナギ小倉屋	副社長 柳本　勇次	神戸市東灘区にある佃煮等を製造する食品メーカー。食品ロス問題や有機物を含んだ排水を利用した最先端の発電にも取組んでいる。
神戸市東灘区まちづくり課	課長 永野　喜久	本校と神戸市東灘区が連携協定を結び、まちづくり課の若手職員が本校の地域課題研究を助言

兵庫県教育委員会高校教育課	課長 新谷　浩一	設置者代表

（６）運営指導委員会が取組む内容

校長経験のある大学教授、文系と理系の専門性のある大学教授、国際ＮＰＯ、企業、地元行政機関など、学際領域学科設置に向け専門的な指導・助言が可能な方に委員を委嘱する。

年間３回程度運営委員会を開催し、各委員の専門性を活かして、令和４・５年度は、新学科設置に向けたカリキュラム開発、校内の体制整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報等の進捗状況、中学校等への広報活動等について助言を行う。令和６年度は、学科の設置年度となるため、入学生の状況等を把握し、カリキュラムの実施や関係機関との連携の深化等について、具体的な助言を行う。

４　学際領域学科又は地域社会学科における取組

（１）学際領域学科又は地域社会学科におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容（学校設定教科・科目の詳細は別添１「学校設定教科・科目の設定に関する説明資料」に記載。）

○　「総合的な探究の時間」による探究活動（学科生全員履修、３年間で４単位）

◇『CROSS Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（１年１単位、２年生２単位、３年生１単位）

・１年１学期～２学期　「探究プロセスの基礎固め」

探究活動のプロセス（課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現）をスパイラルに繰り返し、プロセスの体得を目指した活動を実施。単元ごとに重点項目を設定し、探究のプロセスの各場面における取組み方に焦点化した活動（３つのコアトレーニング）を展開する。

・身近な地域に関するミニコミ誌・動画づくり‥‥（重点項目）テーマ設定とまとめ方

・学問リサーチ‥‥（重点項目）情報収集とその表現

・国際的視野に立ったプチ探究‥‥（重点項目）テーマ設定、情報分析、発表の仕方

・１年３学期～２年１学期　「探究プロセスの展開①」

地域探究プロジェクト実践：神戸大学と協働して課題解決策を見つける学際的探究活動

・２年２学期～２年３学期　「探究プロセスの展開②」

アカデミックリサーチ：関係機関と連携して文理融合の学際的テーマについて探究

・３年１学期～３学期　「探究成果の実感」

論文作成：１・２年の探究活動の内容を論文としてまとめる。

２年生の探究活動のメンター：２年生の探究活動にアドバイザーとして参加

○　学際的な探究活動を支えるための科目（学科生全員履修）

◇『クリエイションⅠ』（１年１単位、長期休業中等に実施）

・STEAM 教育講座‥‥外部の機関と連携して校外の実習等も交えた教科横断型の講座

・デザイン思考講座‥‥未知の課題に対して最適な解決を図るための思考法を学ぶ

・データリテラシー向上講座‥‥データを正しく読み取り分析・活用するための講座

・教科横断型オムニバス授業‥‥教科横断的で学際的なテーマについて複数の教員が専門性を活かしたリレー講義を行い、多角的な視点から学ぶ。

◇『クリエイションⅡ』（２年１単位、長期休業中等に実施）

・国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦‥‥国際 NPO の職員として従事されている方の視点に立ち、実際に、現地の方と英語でコミュニケーションしたり、映像や情報を通じて感じたりした課題を解決する方法を探究する課題解決型ワークショップ。

・ファシリテーション講座‥‥グループ活動のファシリテートの手法を学ぶ。

・１ on １傾聴講座‥‥立場の異なる人と１対１で話をする際、話を引き出していく手法を学ぶ。

・リーダー論講座‥‥地球規模の課題や国際的な活動、地域活動の取組や課題について学ぶ。

◇『クリティカルシンキングＡ』『クリティカルシンキングＢ』（２・３年各２単位）

世相や文化等に関する様々な文章を客観的かつ分析的に読み解き、論理的な正しさや物事の妥当性を含

めて考える。また、振り返り活動を通してメタ認知力を高める。
◇『探究英語Ａ』『探究英語Ｂ』（２・３年各２単位）
英語によるニュースや新聞等を活用して、社会的な話題や国際的な話題について、ディベートやディスカッションを行う。

（２）コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

本校の総合人文コースは、設置当初より高大連携講座や探究活動に取組んできた。そうした中で、本校独自の Win-Win の連携関係を構築しているのが強みである。

〔双方にとってメリットのある Win-Win の連携〕
○　神戸大学文学部との連携（コース設置当初から 15 年間）
　　教員を希望する学生が本校の探究活動を支援（大学の教職講座にも位置づけ）
○　神戸市東灘区との連携協定（平成 31 年３月）
　　東灘区若手職員が本校生の地域探究活動を助言（区役所若手職員の研鑽の場）

総合人文コースを学際領域学科に改編するにあたり、学生が身近な環境から地球環境に至るまで文理融合型で学んでいる神戸大学国際人間科学部環境共生学科や、自然環境について学際的に学ぶことのできる県立人と自然の博物館（兵庫県立自然・環境科学研究所）等と、新たに Win-Win の関係での連携関係の構築を目指したい。

また、国際的な学びのために国際 NPO の Colorbath や（株）JTB と、地域課題の学びのために NPO コミュニティ・サポートセンター神戸や（株）ウエルアップと、コンソーシアム（「MIKAGE コンソーシアム」）を構築する。

コンソーシアム以外にも、リサーチフェアやリサーチフェスタを開催する関西学院大学や甲南大学、自然環境の研究機関としての神戸市立森林植物園等とも連携の輪を広げていく。さらに、生徒がいい意味で刺激を受けるため、県外の高校（岡山学芸館高校）との連携による合同研究発表会の開催等も実施する予定である。

（３）コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
神戸大学文学部	学部長 長坂　一郎	15 年間本校と高大連携講座を実施
神戸大学国際人間科学部環境共生学科	教授　伊藤　真之	本校との学際領域における高大連携講座を実施予定（令和４年度～）
県立人と自然の博物館（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）	次長　石田　弘明	本校の環境科学部と連携して六甲山のキノコ展を開催
神戸市東灘区役所	区長　中田　裕子	本校の地域探究活動を助言
国際 NPO　Colorbath	代表　吉川　雄介	本校と海外との Web 交流を実施
株式会社 JTB 神戸支店 教育旅行センター	センター長 上野　雄一郎	修学旅行・校外学習の企画・運営を担当　コンソーシアム講座等も実施予定
NPO ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ神戸	代表　中村　順子	本校で地域交流講座を実施
株式会社ウエルアップ	社長　尾花　弘教	住環境の提案をしている企業。SDGs に向けた地域貢献の取組について本校で特別講義を実施
兵庫県教育委員会高校教育課	課長　新谷 浩一	

（４）配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
兵庫県立人と自然の博物館社会教育推進専門員	竹中　敏浩

合同会社ユブネ共同代表	東　　善仁
立命館大学大学院　経営学研究科　博士前期課程	林　　留里

当該者の主な実績

竹中氏：専門：地学。県立高校教頭、校長を歴任。SSH 校での管理職経験も有す。定年退職後、県立人と自然の博物館にて勤務へ。現在は生涯学習講座等実施に向けたコーディネーター業務に従事。武庫川女子大薬学部非常勤講師等も兼任。

東氏　：神戸・奈良・島根を拠点とし、地域プロジェクトの企画運営を担う。最近の実績としては、兵庫県立大学通信の編集や奈良県宇陀市の地域プロジェクト「NCL 奥大和」のコーディネート、神戸市西区のイベントの企画運営を担当。

林氏　：専門：経営デザイン、学校経営学。他府県の高等学校の探究活動に継続的に協力。

コーディネーターが取組む内容（勤務形態を含む）

新たな学際領域学科の設置に向けては、これまでの総合人文コースにおける地域の課題について探究活動を行う取組を充実させつつ、それに加えて、学際的な学びを充実させるための新たな連携機関を開拓してコンソーシアムを構築するとともに、校内のカリキュラム開発や体制整備、学科内容の周知・広報の検討等も行っていく必要がある。

そこで、上記３人にコーディネーターを依頼し、それぞれの強みを生かしてコーディネーターの業務を分担して頂く予定である。

竹中氏：理系及び学際的学びを新たに行うための高等教育機関や研究機関等との連携依頼や連絡調整、校内の組織体制整備

東氏　：地域課題についての探究活動充実のための行政機関や企業等との連絡調整、学科内容の周知・広報の検討

林氏　：学際的な探究活動に関わる授業の充実のための調整や、各種会議に関わる運営や連絡調整、カリキュラム開発に向けた各種事業の調整

上記３人は、校務分掌上で「特色教育推進部」に所属してもらう。また、令和５年度の勤務形態は、それぞれ１日７時間で年間 40 日程度の勤務を予定。令和６年度以降からは、常勤として雇用することも検討する。

なお、カリキュラム開発並びに生徒の変容をみる評価方法については、コーディネーターとは別に、専門性を有する以下の方にカリキュラム開発に係る助言をお願いし、年間数回のカリキュラム開発会議を開催して助言を受ける。

若松大輔氏　弘前大学教育学部助教

鎌田祥輝氏　京都大学大学院教育学研究科博士後期課程に在籍
令和５年４月から摂南大学理工学部特任助教（就任予定）

（５）学際領域学科又は地域社会学科の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

学際領域学科の設置は令和６年度なので、以下のような周知広報活動を令和５年度より実施する。

○　学科の教育内容をまとめた広報用リーフレットの作成

新たに設置する学科の教育課程や特色ある行事等をまとめた広報用リーフレットを作成し、学区内の中学校(中学生)に配布する。

○　中学３年生及び保護者、中学教員対象のオープンハイスクールの開催（年間５回）
第１回　５月　学校全体の説明会。学校生活の様子については在校生が説明
第２回　７月　学科のみの説明会。教育課程等の説明だけでなく本校生がファシリテーターとなって参加者のワークショップを実施
第３回　８月　学校全体の説明会。体験授業を実施。
第４回　11 月　学校全体の説明会。
第５回　３月　課題研究発表会の様子の見学（中学２年生対象）
※　新型コロナの状況によっては、オンラインで開催

○　校外での学科説明会の開催（年間３回）
学区内の遠方に住む中学生や保護者、中学教員に向け、校外会場での積極的な広報活動を実施

○　本校ホームページや県教育委員会ホームページでの広報活動
本校のホームページには、広報用リーフレットや学校紹介動画を常時アップする。また、ホームページの中にある学校ブログでは、日々の学校行事の様子（写真とコメント）等をアップしている。県教育委員会のホームページでも、各県立高校の特色がアップされている。

○　本校の学校行事での広報活動
文化祭（６月）の見学（中学生や保護者）、公開授業（９月、中学３年生保護者）

○　塾等が主催する説明会への参加
塾等が中学生や保護者対象の説明会を開催する際に、出席して学校の特色を説明してほしいとの依頼がある場合は、説明会に参加して学科の内容等を説明する。

５　実施計画

（１）３ヶ年の実施計画の概要

〔令和４年度〕　新学科設置準備
○ 新学科のカリキュラム開発
・ カリキュラム開発会議を開催し、以下の内容について検討を行う。
〈検討内容〉
① 探究科目及び新たに設置する学校設定科目の具体の教育内容、教材開発、年間指導計画、校内指導体制、評価方法
② 学際的なテーマについての既存の教科の教科横断型の学びの手法
○ コンソーシアムおよび関係機関との連携体制の構築
・ 新たな機関への連携の依頼と連携内容の協議
・ MIKAGE コンソーシアム会議の開催
○ 関係機関の連携協力による学科設置に向けての特色ある学びの先行実施
・ 長期休業中を利用して、先行実施可能な取組を関係機関の連携協力により先行実施○ 入学者選抜（入試科目等）の検討
・ 県教育委員会と協議しながら入試科目等を検討する。
○ 県外の高校と合同での課題研究発表会の開催
・ 岡山学芸館高校と合同での課題研究発表会を開催し、生徒同士の議論の場を作る。

〔令和５年度〕　新学科設置準備（前年度）
○　定期的なカリキュラム開発会議の開催
・探究科目や学校設定科目、新学科の取組等、特色ある学びの先行実施
・特色ある学びの先行実施の方法や内容の検証、検討

○　MIKAGEコンソーシアム会議の定例化
　・新学科設置年度に向け、コンソーシアムによる連携体制の確認、強化を図る。
　・関係機関の連携協力による授業を先行実施
○ 新たなカリキュラム実施（初年度：１年生）に向けての校内体制の整備
　・コーディネーターも含めた新学科開設準備委員会を中心に校内体制を強化する。
○ 中学校等への新学科の内容の広報活動の実施
○ 新たな学校設定科目の県教育委員会への届出
○ 入学者選抜（入試科目等）の検討、実施
　・県教育委員会と協議しながら入学者選抜方法を検討し、実施する。
○ 県外の高校と合同での課題研究発表会の開催

〔令和６年度〕　新学科設置初年度
○ 各実施事業等の成果検証と改善の検討
○ 関係機関の連携協力による新たなカリキュラム（初年度：１年生）の実施
○ 新たなカリキュラム実施（２年生・３年生）に向けての校内体制の準備

（２）令和５年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	**関係機関等との連携・協力体制の構築**
通年	『クリティカルシンキングＡ』の先行実施 『CROSSⅠ・Ⅱ』の実践内容の先行実施	コーディネーターによる関係機関等との連絡調整
４月	■第１回カリキュラム開発会議 　顔合わせ・事業展開の確認 ☆地域探究プロジェクト（学際探究）神戸大学生とのタイアップ開始（～７月） ☆ビルドアップレクチャー　デザイン思考講座	コーディネーターと校内部署の打合せ 新たな関係機関への連携協力依頼 関係機関の協力による授業実施 ●第１回運営指導委員会 　顔合わせ・事業展開の確認、助言
５月	☆ビルドアップレクチャー　リーダー論講座 　地域・世界で活躍するとは	関係機関の協力による先行実施事業 　CS 神戸・Colorbath ▲第１回コンソーシアム会議 　顔合わせ・事業展開の確認、12 月行事の依頼
６月	☆神戸大学主催　地域探究プロジェクト発表会 ☆探究コアトレーニングⅠ 　身近な地域に関するプレゼンテーション発表会 ■第２回カリキュラム開発会議 　地域探究プロジェクト（学際探究）の成果検証	関係機関の協力による先行実施事業 関係機関の協力による授業実施 　東灘区役所
７月	☆ビルドアップレクチャー 　１ on １傾聴講座、ファシリテーション講座、よのなか講座 ☆ことばの力シンポジウム ☆岡山学芸館高校　交流発表会① ☆御影セッション（学年を越えた交流発表会）	関係機関の協力による先行実施事業 　ライフデザイン研究所 FLAP　他

8 月	☆STEAM講座［各３日間・21コマ・選択］ ◀…… 　テーマ：兵庫・神戸・御影、６講座程度実施 カリキュラム・教育方法に関する校内検討 （校内組織：特色づくり委員会、教育課程委員会）■第３回カリキュラム開発会議 　１学期実施事業報告、討議、助言、２学期実施事業の予定報告、助言	関係機関の協力による先行実施事業 　ウエルアップ、神戸大学、甲南大学　他 令和６年度以降の実践プログラムに関する関係機関との打合せ ●第２回運営指導委員会 　１学期実施事業報告、助言 　２学期以降の事業予定報告、助言
9 月	☆探究に関する授業の外部公開 ☆探究コアトレーニングⅢ ◀…… 　国際的視野に立ったプチ探究 ☆ビルドアップレクチャー　探究プロセスの実際 ☆アカデミックリサーチ開始	今後のコンソーシアムの在り方の検討 関係機関の協力による先行実施事業 　Colorbath
10 月	☆ビルドアップレクチャー ◀…… 　社会における学際的な諸課題の実際 ■第４回カリキュラム開発会議（※オンライン） 　先行実施事業の成果検証と令和５年度のカリキュラム・教育方法の具体に関する協議	関係機関の協力による先行実施事業 　神戸大学 グローカルコンシャスデイ実施に向けたコンソーシアム各団体との調整
11 月	カリキュラム・教育方法に関する校内検討 （校内組織：特色づくり委員会、教育課程委員会）	▲第２回　コンソーシアム会議 　グローカルコンシャスデイの方針の確認、先行実施事業の報告
12 月	☆グローカルコンシャスデイ（コンソーシアム講座） ◀… 　コンソーシアム団体を中心に15講座程度実施 ☆ビルドアップレクチャー　データリテラシー講座	関係機関の協力による先行実施事業 ▲第３回　コンソーシアム会議 　グローカルコンシャスデイの検証 　次年度への展望
1 月	■第５回カリキュラム開発会議（※オンライン） 　令和６年度のカリキュラム・教育方法案の決定 カリキュラム開発会議を受け、校内での体制構築 ☆カリキュラム開発委員による地域探究プロジェクト入門に関わる助言	来年度の授業についてコーディネーターとの調整・依頼開始
2 月	■第６回カリキュラム開発会議 　先行実施事業を含めた今年度の総括、成果検証 ☆地域探究プロジェクト入門 ◀…… 　東灘区役所の方からの助言	今年度のコンソーシアムの取組の総括 関係機関の協力による授業実施
3 月	☆課題研究発表会（外部公開） ☆岡山学芸館高校　交流発表会② ☆東灘区役所　意見交換会 ☆探究フェスティバル（学年を越えた探究発表会）	●第３回運営指導委員会 　今年度の総括、次年度の課題討議 関係機関の協力による授業実施

（３）事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み（事業のアウトプットやアウトカムの考え方、目標指標の設定は別添２「目標設定シート」に記載。）

○ 本事業での目標指標の設定の考え方【具体の指標は別添２】

別添２は、様式が生徒の変容に関する評価となっているため、下記の①（生徒の変容の視点）に関する成果目標を設定した。２（１）で記述した「高校魅力化評価システム」のアンケートの中で、評価が低く、本校の課題であると認識できる３項目を評価指標と設定し、本校の新学科への改編年度が令和６年度を予定していることを鑑み、特色ある学びの先行実施を通じて、３年間の事業の実施によっていかに成果を上げることができるかを検証する。

残りの②～⑤の視点については、学校評価アンケートや志願者数のデータ、連携のあり方（Win-Win の関係が構築されているか）、外部の発表会への参加状況、進路実現状況等、本校独自で評価項目や評価方法を設定し、検証を行うべく、運営指導委員会やMIKAGE コンソーシアム会議に加え、カリキュラム開発会議でも報告し、それぞれの場で助言・指導いただいた内容を、職員会議や授業担当者間の打合せ等で報告・共有することで、生徒の学びにフィードバックしたい。

○ 事業の成果をどう評価するかの視点

事業の成果をどう評価するかということについて、次の５つの視点から評価する。

① 生徒の変容の視点

２（２）で記述した５つの力、特に、５つめの力と関連して、生徒の視野の広がりや認識の深まりが進んだかを評価する必要がある。

② 教員の変容（資質向上）の視点

４（１）で記述した学際的で先進的なカリキュラムを展開するためには、教員の変容（資質向上）が不可欠であり、それがどう進んだかを評価する必要がある。

③ 中学生からの視点

新たな学際領域学科が設置者及び本校の自己満足にならず、中学生にとって魅力ある学びを展開する学科と認識されているかどうかを評価する必要がある。

④ 外部の機関との連携関係構築の視点

大学や研究機関、NPO や企業などの様々な外部機関との連携（MIKAGE コンソーシアム）がうまく構築され、生徒に学際的学びを提供できているかを評価する必要がある。

⑤ 新学科の生徒の学びのアウトプットや出口（卒業時）の視点

探究を中心に学際的な学びの成果を積極的に外部の発表会等でアウトプットしているかや、卒業時に学際的学びを生かした進路実現ができているかを評価する必要がある。

○ 事業の進捗状況の定期的な確認と改善に向けての助言の仕組み

年間３回の開催を予定している運営指導委員会やMIKAGE コンソーシアム会議で事業の進捗状況を報告し、委員からの助言・指導をもとに、随時改善策を検討する。設置者の県教育委員会は、上述の会議はもちろんのこと、課題研究発表会等の場で生徒の学びの様子や教員の指導の現状を確認し、学校訪問指導等の場でより具体的で的確な助言を行う。

６　成果の普及のための仕組み

本校の取組は、大学進学を目指す都市部の普通科高校に文理融合の学際領域系学科を設置するモデルになると考える。そこで、以下のような様々な場面で、その実践や成果を広く公表していきたい。

○　課題研究発表会の合同実施および公開

令和３年度から岡山学芸館高校と課題研究発表会を合同で実施し、生徒同士の議論もさせる取り組みを始める。この取組を引き続き継続・拡大していくとともに、学際領域のテーマについての課題研究発表会について、県内外の高校の教員に広く公開する。

○　学際的な探究活動を支える科目「クリエイション」や学際的な探究活動に関わる授業公開

「クリエイションⅠ・Ⅱ」で実施する STEAM 教育講座や、国際貢献活動にかかわるプロジェクト挑戦の様子、教科横断型のオムニバス授業等、先進的な授業に加え、学際的な探究活動を実践している授業等を研究授業として公開する。

○　連携機関等と連携した探究活動の取組を積極的にホームページで公開

　コンソーシアムを構成している機関等との探究活動の取組の様子を、積極的に学校のホームページで公表する。加えて、県教育委員会と連携して県教育委員会のホームページでも、他校のモデルとなる取組を紹介する。

7　国の指定終了後の取組継続のための仕組み

○　MIKAGE コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組みづくり

　学際領域学科の特色ある学びを支えるのは、コンソーシアムを構築する機関等との継続的に連携が続く仕組みづくりである。４（２）で記載したように、国の指定期間内で、それぞれの機関と双方にとって Win-Win の関係になる連携のスタイルを確立し、学校内の学びから学校外での学びへと発展できる「共創した学び」となるよう更なる仕組みを構築する。

○　コーディネーター機能の維持

　指定期間後のコーディネーター機能の維持については、コンソーシアム内の大学または企業からの継続的な人員配置が行えるよう Win-Win の関係の構築に取り組む。また、コンソーシアムからの人員配置が行えない場合に備え、予算の確保、教員のコーディネーター機能の移行についても検討し、コーディネーターの望ましいあり方について指定期間中に方向性を決定する。

②事業の実施日程

事業項目	実　施　日　程　（令和５年４月１日～令和６年３月 31 日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
コーディネーターの活動												
コーディネート業務	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カリキュラム開発												
校内でのカリキュラム検討	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
カリキュラム開発会議			●			●		●			●	●
先行実施事業												
クリエイション講座					●							
ビルドアップレクチャー		●		●			●					
シンポジウム				●								
Cross Ⅰ・Cross Ⅱ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クリティカルシンキング A	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
グローカルコンシャスデイ									●			
探究活動成果発表会												
校内発表会							●					●
校外での探究活動発表			●					●	●		●	●
県外高等学校との交流発表会				●								●
新学科設置に向けた説明会の実施												
学校・学科説明会		●	●	●	●	●	●	●				●
成果の周知												
本研究開発のウェブ発信	随時											
視察対応					●		●	●	●	●	●	●

③実施の概要（所属等は令和５年４月１日現在）

１　カリキュラムの検討内容

本校は、現在開設している総合人文コースを、令和６年度より普通科新学科・学際領域学科として改編することを見越して、カリキュラム等を検討してきた。令和６年度からは、計画してきた内容を実践しながら、随時検証しつつ展開していきたい。

１－０　カリキュラム開発にかかわる会議の体制および取組

新学科のカリキュラムについては、校内組織である「特色づくり委員会」と、令和４年度に発足させた「カリキュラム開発会議」を中心に検討し、原案を作成した。

校内組織「特色づくり委員会」は、本校教頭、主幹教諭３名、特色教育推進部３名、教務情報システム部長、各学年担当者１名の計１１名で構成される委員会とした。令和３年度には１５回、令和４年度には２２回の会議を開催し、新学科に向けた検討や、新学習指導要領を鑑みた探究のカリキュラムに関する協議を実施した。また、令和５年度も１月までに２２回開催し、本事業に関する協議に加え、新学科開設に向けた検討や探究に関するカリキュラムの検証等を実施した。

また、上記「特色づくり委員会」のメンバーに、校長、および、校外専門家として、カリキュラム開発委員２名を招聘した会議が「カリキュラム開発会議」である。昨年度発足させたこの会議では、「学際的な取組みとは何か」という点から議論し、「学際的な探究プロセスとは何か」を図示したもの［図１・２］を提案するに至った。また、今年度も、「特色づくり委員会」で議論した結果を再度協議し、共有しながら、新学科のカリキュラム、および、本校の探究的な学びについて議論を深めた。各委員の都合等を鑑み、年度当初予定した実施回数を減らすこととなったが、充実した議論ができており、次年度は実践に対する検証を中心に実施したい。

図１：御影高生の学際探究モデル：個人探究の深まり

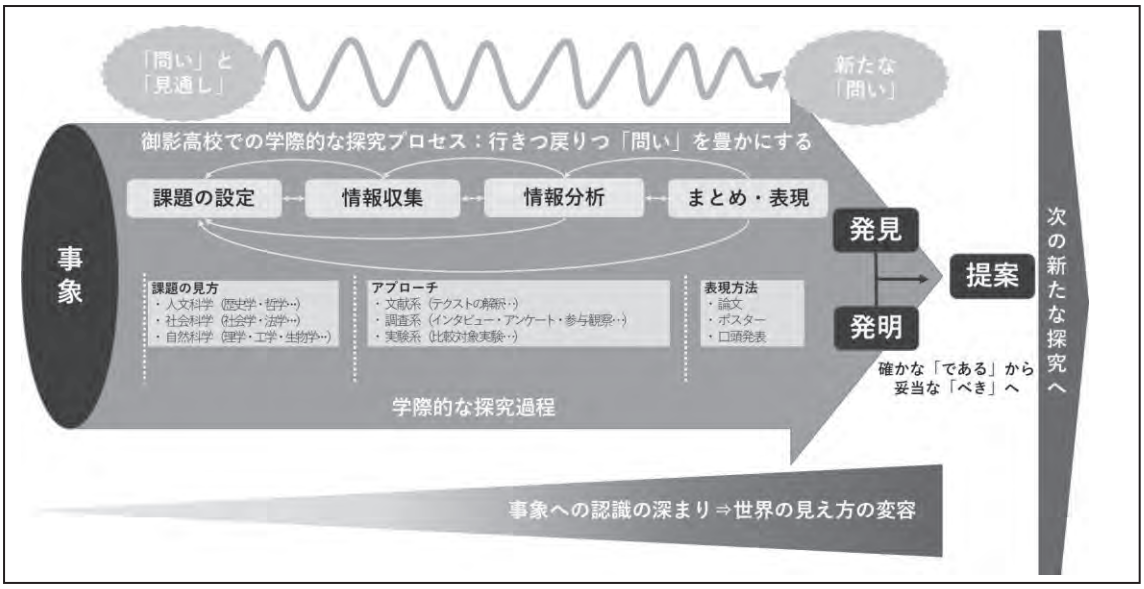
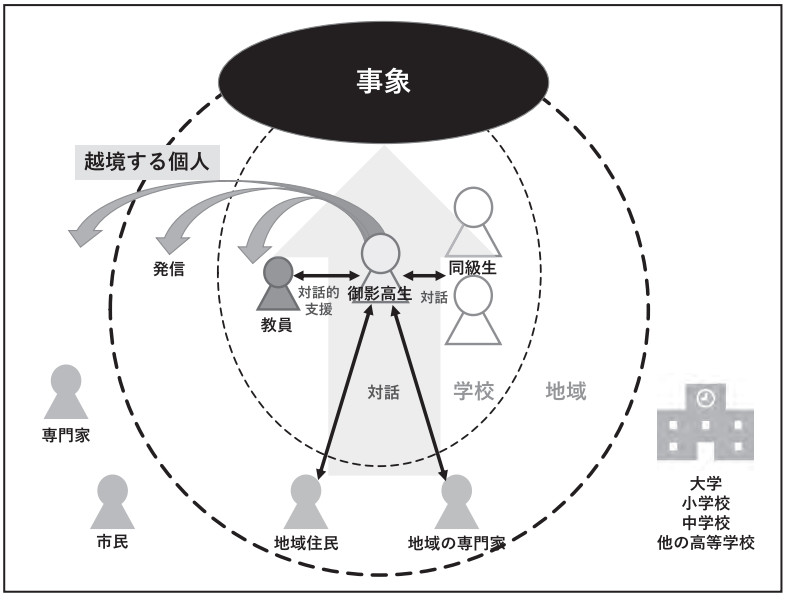


図２：多層的な探究コミュニティのモデル



■カリキュラム開発委員

若松 大輔 氏	弘前大学 大学院 教育学研究科 助教
鎌田 祥輝 氏	摂南大学 全学教育機構 教職支援センター 助教

■カリキュラム開発会議の概要

	実施日	実施内容
第１回	６月８日	・今年度の方向性について ・CROSS、クリエイション、クリティカルシンキング、探究英語について
第２回	９月 21 日	・クリティカルシンキング、探究英語について
第３回	10 月 26 日	・探究Ⅱの中間発表を受けての感想、助言 ・今後の御影高校の探究の在り方について
第４回	２月８日	・来年度のカリキュラム、探究活動の進め方への指導・助言
第５回	３月 19 日	・御影セッションを踏まえて、次年度に向けた展望

１－１　新学科のキャッチコピー、理念

広がる学び、多彩な未来

予測不能な今後の社会において、多彩な力を発揮し、新たな価値を創造しながら活躍できる人を育成することを目標とする。その目標を実現させるため、校外機関とも連携をとりつつ、生徒の学びのフィールドを校外に広げ、多様な認識や高次の認識をもととし、学際的に取組む探究活動を展開することで、生徒の知的好奇心を高めるとともに、主体性や協働性、課題解決能力、言語表現スキルの伸長をはかる。

１－２　目指す生徒像、教育目標、グラデュエーションポリシー

①　地域や国際社会のありようにしっかり目を向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や是正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒を育成する。

②　人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自

らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒を育成する。

③　地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒を育成する。

１－３　カリキュラムポリシー

①　探究のプロセスを体系的に学び、実践を行う授業を設定する。

②　自らの興味関心に応じた探究活動や地域に関する探究活動に学際的に取組む授業、および、人文・社会・自然科学の専門知識を幅広く学ぶ教科・科目を受講できる教育課程を設定する。

③　実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」、「対話力」、「表現力」等を磨くために、学科独自の科目を設置する。

④　学びのフィールドを校外にも広げ、社会の実状を知る機会を設け、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践する。

⑤　生徒が主体的に進路選択できるよう、学びの振り返りを行う機会を設けたり、生徒の興味関心や、進路希望に応じた選択科目を設置したりし、きめ細やかな支援を行う。

１－４　求める生徒像、アドミッションポリシー

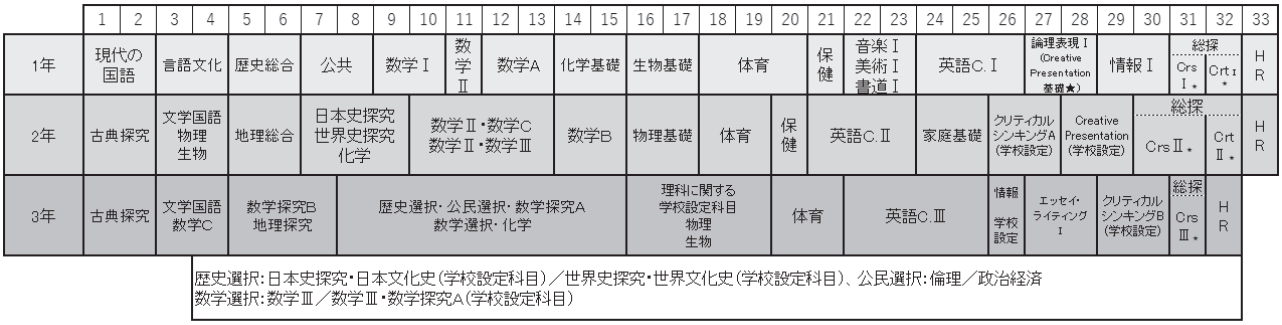
①　社会の諸事象に対して、興味関心を持っている生徒

②　仲間と協力し合い、答えのない課題に取組むことに前向きな生徒

③　「学際的な学び」に対し、好奇心をもって取組もうとする生徒

１－５　実施教育課程

上記ポリシーの達成を実現させると同時に、探究的な学びを軸としながら、幅広い教科・科目を選択しながら受講することを可能とするため、このような教育課程を想定している。



（★校内名称）　＊開講科目・単位数等は、変更される可能性があります。

１－６　学科独自科目について

令和４年３月に県教委により策定された「県立高等学校教育改革第三次実施計画」第３章（４）において、

◇ 文理融合型の課題探究を軸とした教育課程または、地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びを軸とした教育課程を編成する。

◇ 課題探究に特化した科目を、「総合的な探究の時間」を含め７単位以上設定する。

と示されていることをもとに、令和４年度に幅広く議論したものをベースにしつつ、令和５年度はさらに議論を深めた。その結果、文理探究科における、総合的な探究の時間での取組や、学科独自の教科・科目について、カリキュラム開発会議の議論を踏まえ、以下のように決定した。

■CrossⅠ～Ⅲ

先に示した「学際的な探究プロセス」［図１・２］をもとに探究活動を進める科目である。１年生から３年生まで全学年で開講し、体系的に探究に取組みつつ、その手法を学ぶ科目とする。また、主だった探究課題は以下の通りとする。

１年生の課題	２年生の課題	３年生の課題
（１）自らの住むまちの活性化に向けた特色ある取組を考える。 （２）２つのテーマ探究を通じて、探究の基礎を固める。	（１）地域探究プロジェクトに取組む。 （２）各セミナーにおいて設定された課題に取組む。	（１）これまでの探究的な学びを論文化する。 （２）２年生のメンターとして探究指導を実践する。

※先行的に取組んでいる内容については、以下の先行実施事業の項で一部紹介する。

■CreationⅠ・Ⅱ

先に示した「学際的な探究プロセス」［図１・２］をもとに進められる探究活動を支える科目として開講する。CreationⅠは１年生時に、CreationⅡは２年生時に受講する。まとまった時間を要することや、講師の確保に努めることを鑑み、それぞれの科目は、夏季休業中や春季休業中等、週時程外での実施も検討している。探究活動に関わる事項やそれ以外の事項も含めて、生徒が考える際のアイディアの「種」になるようなことがらを学んだり、考えを深めるための「枠組み」となるような学びを深めたりする授業となるよう、ほとんどの授業を外部と連携し、学びのフィールドを校外に広げる。また、校外での学びを通じ、生徒が実社会の現状を知る機会ともする。主たる課題は以下の通りとする。

１年生の課題	２年生の課題
（１）選択STEAM講座を通じて実社会の様相を知り、自分が社会にどのように貢献できるかを考える。 （２）データサイエンスに関わる講義を受け、探究の在り方について考える。	（１）国際的な視野に立った社会貢献実践プロジェクトに取組む。 （２）グループディスカッションのファシリテーションや、傾聴研修を経て、コミュニケーションの在り方について考える。

※先行的に取組んでいる内容については、以下の先行実施事業の項で一部紹介する。

■学校設定教科「Cross-Creation」

上記の総合的な探究の時間に加え、文理探究科独自の教科として、「Cross-Creation」という教科を学校設定教科として設置する。この「Cross-Creation」では、クリティカルシンキング A・クリティカルシンキングB、および、Creative Presentationの３つの科目を設定し、３つの科目に加え、他教科の学びを相互に連関させながら展開する。より広い価値を創造し、多様な認識や高次の認識ができる力を持って、学際的課題の解決に向け、将来社会で活躍できるリーダーシップをもったクリエイティブな人材を育成するために、自らの知見をより深めるワークショップ、他科目等で得られた知識を活かす活動や、多様な文章の読み取りの実践、また、発表やディスカッションの機会等を通じて、自らの探究活動や、ひいては、実社会での活躍につながる読解力や論理的思考力、対話力、表現力等を磨くとともに、主体的・協働的に、粘り強く課題に取り組む力を養う。

（１）クリティカルシンキングA・クリティカルシンキングB

クリティカルシンキングAは、２年生を対象に、探究に特化した科目として開講する。自らの探